

当科における食道裂孔ヘルニア手術 — 適応と方法および手術成績の臨床的検討 —

の 野 村 村 　　はじめ 肇 　　たけ 竹 　　ばやし 林 　　まさ 正 　　たか 孝

キーワード：胃食道逆流症，逆流性食道炎，食道裂孔ヘルニア，
食道裂孔ヘルニア手術，腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術

要 旨

食道裂孔ヘルニアと関連した難治性の胃食道逆流症や通過障害，心肺機能障害などを来している症例に対しては手術が検討される。今回，2011年から2022年に当科で施行した食道裂孔ヘルニア手術について報告する。上記の期間中，本文中に示すような手術適応と方法にて計16例の手術を施行した。手術全例において逆流症状や通過障害など病態の改善を得ることができ，11例で長期服用されていた制酸剤の中止が可能であった。現在までのところ，食道ヘルニアの再発は認めていない。一方で幾つかの術中・術後合併症も経験し，特に食道の高度短縮化を伴う症例やIV型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡手術は，手術難易度や合併症のリスクが高いことも改めて認識された。当科で施行している手術の有用性は高いと考えるが，高難度症例に対する腹腔鏡手術の有用性や安全性については，今後さらなるエビデンスの構築が重要であると考えられた。

【はじめに】

食道裂孔ヘルニアは，食道内への胃酸逆流の増加と胃酸排出遅延を来し，胃食道逆流症 (gastroesophageal reflux disease：以下GERD) の原因となる¹⁾。GERDは，食道粘膜障害を有する逆流性食道炎 (Reflux esophagitis) と症状のみを認める非びらん性逆流症 (Nonerosive

reflux disease：以下NERD) に分類される。その他，食道裂孔ヘルニアは食物通過障害やヘルニア臓器の嵌頓，呼吸機能障害，心機能障害などを来すことがあり，内科的治療で改善が得られない場合は手術が検討される。手術に関しては，食道裂孔ヘルニアに対する手術症例数の多い施設で行うのが理想ではあるが，地方の高齢患者が遠方へ出向いていくには様々な面でハードルが高いのが現実である。そうした患者に何とか対応するため，当科は外科常勤医2名であるが，慎重な計画のもとに手術を行っている。今回，当科における食道

Hajime NOMURA et al.

島根県済生会江津総合病院外科

連絡先：〒695-0011 島根県江津市江津町1016-37

島根県済生会江津総合病院 (外科)